

予防接種について

《 結核(BCG) 》

金沢市の乳幼児期に受ける定期予防接種

(2020年10月1日現在)

乳幼児期の 予防接種		受ける時期と接種回数	ワクチン 種別
ロタ ウイルス	ロタリックス	出生6週0日後から24週0日後まで(初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔をおいて2回経口投与	生ワクチン (経口)
	ロタテック	出生6週0日後から32週0日後まで(初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔をおいて3回経口投与	
Hib (インフルエンザ菌 b型)	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて3回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注)	不活化 ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて2回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注) ②1歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
小児用 肺炎球菌	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて3回接種(生後24か月(標準として生後12か月)の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に(生後12か月～15か月の前日までを標準的接種期間として)1回接種(注)	不活化 ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて2回接種(生後24か月(標準として生後12か月)の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に1回接種(注) ②1歳の誕生日～2歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 60日以上の間隔をあけて2回接種 ③2歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
B型肝炎		1歳の誕生日の前日まで(標準として生後2か月～9か月になるまで)に27日以上の間隔をおいて2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔をおいて1回接種	不活化 ワクチン
ジフテリア 百日せき 不活化ポリオ 破傷風 (DPT-IPV)	1期 初回	生後3か月～90か月(7歳6か月)の前日までに 初回: 20日以上(標準として20日～56日)の間隔をあけて3回接種 追加: 1期初回(3回)終了後、6か月以上(標準として1年～1年半)あけて1回接種	不活化 ワクチン
	1期 追加		
BCG		1歳の誕生日の前日まで(標準として生後5か月～8か月になるまで)に1回接種	生 ワクチン
麻しん 風しん (MR)	1期	生後12か月～24か月(2歳の誕生日の前日)までに1回接種	生 ワクチン
	2期	小学校就学前1年間(幼稚園等の年長さん相当の年齢)にある間に1回接種 ※別途個別に通知します。	
水痘		生後12か月～36か月(3歳の誕生日の前日)までに3か月以上(標準として6か月から12か月まで)の間隔をあけて2回接種 ※1回目の標準的な期間は、生後12か月から生後15か月になるまでです。	生 ワクチン
日本脳炎	1期 初回	生後36か月(3歳 [※])～90か月(7歳6か月)の前日までに ※標準的な接種開始時期は3歳です。生後6か月から接種可能です。	不活化 ワクチン
	1期 追加	初回: 6日以上(標準として6日～28日)の間隔をあけて2回接種 追加: 1期初回(2回)終了後、6か月以上(標準としておおむね1年)あけて1回接種	

(注)Hibワクチンおよび小児用肺炎球菌ワクチンは、接種開始年齢等によって接種回数が異なります。接種回数、間隔などは接種医とよくご相談ください。その他、任意予防接種として、おたふくかぜ、インフルエンザなどがあります。

周知方法 個別通知 接種場所 予防接種協力医療機関 接種時期 通年

◆他の予防接種との接種間隔(別の種類の接種を行うまでの期間)◆

注射生ワクチンを接種した場合: 次回別の種類の注射生ワクチンを接種する場合は、接種した日の翌日から起算して、27日以上あけます。

BCG

◆ BCGワクチンについて 結核を予防するための生ワクチンです。

◆ 接種対象年齢 1歳の誕生日の前日まで(標準的な接種期間は生後5か月から8か月になるまで)に1回接種します。

◆ 結核とは? 結核菌の感染で起こります。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人前後の患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力(免疫)は、お母さんからお腹の中でもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力(免疫)が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

◆ 効果 BCG接種により結核の発病を約4分の1に減らすことができ、その効果は10年～15年程度持続されます。特に乳幼児における結核性髄膜炎や粟粒結核などの重篤な結核の発病予防には高い効果があります。

◆ 予防接種後の針痕部位の変化 接種後10日頃に接種部位に赤いポツポツができ、一部にうみができることがあります。このような反応は接種後1か月頃が最も強くなりますが、その後、かさぶたができて、接種後3か月頃までには治り、小さな傷あとを残すだけとなります。これは、異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力(免疫)がついた証拠です。

コッホ現象とは?

既に結核に感染したお子さんにBCGを接種した場合、早ければ接種後1、2日、遅くとも10日以内に接種部位の発赤やはれ、化膿等が起こることがあります。これを“コッホ現象”といい、通常、2週間～4週間後に治癒します。接種後1、2日の反応に対応できるように、BCG接種は週の前半(月～水曜日)に実施するようにしましょう。

“コッホ現象”が見られたときは、周囲に結核患者がいる場合も考えられ、本人や家族の検査が必要な場合もありますので、早急に接種医にご相談ください。

副反応

接種後1か月前後から接種した側のわきの下のリンパ節がまれにはれることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大きくはれたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。このようなときは接種医にご相談ください。